



亡き祖母へ贈る白星

夏の甲子園 伊藤選手、形見胸に躍動 光星初戦突破

成長した姿を見てほしい

9日、全国高校野球選手権で初戦を突破した八戸学院光星。東京都出身の二塁手伊藤優平選手(17)は高1の冬、祖母ヒル子さん(享年76)を白血病で亡くした。この日は祖母の形見の

ネックレスをユニホームにしのばせて懸命にプレー。六回に適時打を放つなどして亡き祖母に勝利を届けたい。「天国でずっと喜んでくれているはず」と試合後、笑顔で汗を拭いた。

ヒル子さんは母子家庭で育つ伊藤選手のため、野球用具購入など金銭面などでサポート、孫の成長を見守ってきた。しかし、元氣だったヒル子さんは2014年6月、白血病を発症。同

年12月に他界した。伊藤選手の母親(55)は、野球に専念してもらいたいとの思いから、選抜が終わった昨年3月、息子に祖母の死を告げたという。「亡くなったと聞いたとき、小さいころからの思い出がよぎって泣いてしまった」と同選手。

天国の祖母に甲子園で活躍する姿を見せたいとの一心で、野球に打ち込んだ。50分6秒を切る俊足を生かし、右打ちからより一塁に近い左打ちに転向。仲井宗基監督の信頼も厚い、不動の1番打者に成長した。9日の甲子園初戦。持ち味の足技は陰を潜めたが、打撃で活躍。六回2死一、三塁の好機では打席に入る前、首に掛けていた、祖母の形見のハート型の金色ネ

ックレスにそっと触った。「自分を見てほしい。そして力を貸してほしい」。祈りが通じたか、初球の内角ストライクを思い切り引っ張ると、打球は右翼手の頭上を越える適時二塁打に。孫の野球生活を見守ってきた祖母にささげる一打となった。

試合後には「思いが通じたと思う」と適時打を振り返り、祖母の話題にうれしそうに表情を浮かべた。が、すぐに気を引き締め「自分のやるべきことはまだある。出塁して、相手をかき回したい」と次戦を見据えた。

スタンドで息子の晴れ姿を見詰めた綾子さんは「もう少し打てるはず。どんどん塁に出て自分の仕事をしてほしい。次はやってくれる」と、高校最後の夏の活躍に期待を寄せた。

【本田海輝】 【詳報15面】